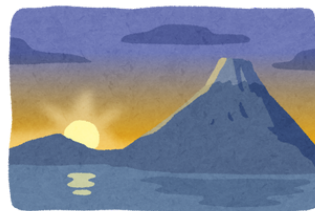


# NEXT STEP



令和8年1月23日

No.44 県事研究部

## 秋季学校事務研究会 を終えて

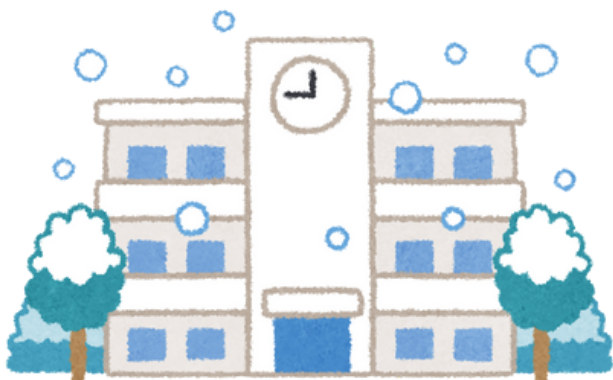
10月16日に行われた秋季学校事務研究会についてお伝えします。県内各地から参集し、自分とは異なった価値観をもつ仲間と話すことで、「どうしたらあの業務を進めることができるだろう」、「誰と解決していこう」など、共に考える時間となったのではないのでしょうか。ほんのひとときでも、意見や情報を交わし考えることで、直接的な解決策が見つかったり、ヒントの種を得られたりしたのではないかと思います。

さて、今回の研究会では「子どもたちの確かな学びを支援する学校事務～学校運営に資する実践の共有と活用を目指して～」のテーマのもと、全体会・分科会を通して学校運営に主体的・積極的に参画していくことについて考えていきました。

前半の全体会では、岐阜県下呂市の共同学校事務室の現状について研究部による視察報告を行い、福井県の共同実施の現状と将来の展望について考える機会としました。

後半の分科会では、福井支部、勝山支部、坂井・あわら支部、南条支部の取組事例やその課題の共有を通して、各々が直面している課題の解決や校務運営への参画に繋がるように考えを深めていきました。

それでは、それぞれ振り返ってみましょう。



## 全体会

全体研究会では8月に視察した岐阜県下呂市の共同学校事務室の状況について研究部が報告しました。

下呂市は共同学校事務室の制度が導入されたばかりで、事務室の設置等はなく、福井県の共同実施と大きく変わることはない様子でした。そうした中で、下呂市では統括事務長のもと共同学校事務室(共同実施組織)を機能的に運用し、さまざまな取組を行っていました。その理由として、教育委員会や管理職を含む協議会が十全に機能しており、また事務職員からの積極的な働きかけがあることが挙げられます。昨今、福井県の共同実施について活動のマンネリ化に悩んでいる声も聞かれます。しかし、今回の視察を通して、共同実施という組織をうまく活用していく余地はまだまだあるのではないかと思います。今回は改善のための具体的な方策を考えるまでには至りませんでした。一人ひとり意識を新たに取組んでいこうと思っていただけたのではないのでしょうか。

### 視察に行った感想

今回、視察に行かせていただき、他県の様子を知ること、福井の共同実施や自分の学校での仕事について客観的に振り返ることができました。また同行した研究部のメンバーとは道中に共同実施や学校事務の仕事について語り合うこともでき、たいへん刺激になり、研究部活動を通して良い経験ができました。

このような機会を持たせていただいたことに感謝するとともに、会員のみならずにも、このような機会があればぜひご参加されることをおすすめします！  
(研究部員募集中です！)



## 第1分科会

第1分科会では、さまざまな取組事例を参考にしながら、地教委や他職種との連携・協働の在り方について考えを深めました。前半では、福井支部より福井市の業務検討委員会の取組について報告があり、文書管理システムの構築を通じた市教育委員会との連携や、他職種との協働事例が紹介されました。後半では、直面している課題の解決のために、地教委や他職種とどのように関わり、どのように取組を広げるとよいか議論を深めました。

福井支部の報告では、取組の経緯について説明があった後、市教委や他職種との連携の目的や内容について話がありました。市教委や他職種と関わる中で、考え方や視点の違いから新たな気づきがある一方、誤解が生じることもあり、理解を得るために丁寧な対応を心掛けていたとのことでした。互いの事情を知ることで、歩み寄りやすくなるのではないかと、という話もありました。

グループ討議では、事務職員だけでは解決できない困りごとを挙げ、その整理をしました。他支部での事例や取組、経験などの情報を共有しながら状況を整理し、解決の方向性を探りました。以前から抱え続けてきた課題も多く、少しでも改善に繋がれるように意見を交わしていました。

参加者からは「教委・教員・その他の人々の力をお借りして学校環境をより良くしていく為の案がたくさん出て、学校に戻っても役立てそうだ」、「色々なアイデアを聞くことができてよかった。日々の業務に前向きに取り組もうと思えた」といった感想がありました。今後の改善に向けた足掛かりとなっていれば幸いです。

### グループワーク内容

- ① 事務職員だけで解決できない困っていること
- ② ①はだれと協働できるか
- ③ 実践・改善事例の共有
- ④ 理想の姿について
- ⑤ ④のためにできる行動とは



## 第2分科会

第2分科会は、「C4thを活用した業務改善を考えよう」というテーマで実施しました。前半は、勝山支部から校務支援システムの基本的な役割やC4thの機能、勝山支部での活用事例等について説明がありました。

後半は、現時点でのC4thの長所・短所を考えるために、「C4thの導入に賛成か、反対か」というテーマで、ディベート形式の話し合いを行いました。賛成派の意見として「県下統一になるのでいろいろ改善するチャンス」、「全市町導入なので異動しても不安がない」等の意見がありました。反対派の意見として「たくさん機能があっても使いこなせないが、逆に欲しい機能がない」、「職員の出勤管理が正確にできていない」等の意見がありました。その後、今後さらにC4thを有効活用していくために、C4thの機能の改善点や便利な使い方等について話し合いました。参加者からは「他の市町のC4thの使い方や、使っていない人の意見を知ることが出来てよかった」、「C4thについて、話し合いができて良かった。先生方に向けては便利な機能はあるが、事務職員向けにはまだまだ足りてない機能がたくさんあると感じた」、「C4thについて、県内で意見をまとめて、服務関係帳簿の搭載や、微調整についての修正を要望していけるとよいと思った」といった感想がありました。

来年度からすべての市町で導入される予定ということもあり、参加者は熱心に話し合いを行っていました。今回の分科会での意見交換を生かし、C4thがこれからさらに利用しやすいものとして発展していくことを願っています。

### グループワーク内容

- ① C4thの導入に賛成か反対か
- ② C4thの機能の改善点や便利な使い方





## 第3分科会

第3分科会では、現在の共同実施による課題解決のための取組事例を足掛かりに、この先の未来の学校における事務職員と共同実施の展望や、起こりうる新たな課題について考えました。

前半では、坂井市学校事務共同実施において課題解決のために結成された業務別チームでの取組や、その中で開発された「職員個票システム（通称「Sシステム」）」等の成果物の紹介を行いました。「Sシステム」は、在籍する職員ごとの個票データを転出先の学校で取り込むことで、その職員に係る起案書や届出書、認定簿等の各種帳票を出力できるシステムです。このシステムの紹介で、共同実施の取組による事務業務の課題解決や負担解消の一例を示しました。

後半はグループワークを行い、未来の学校における学校事務と共同実施の在り方や、そこで生まれる課題について話し合いました。今年の全事研大会で紹介されていた、現在先進校で推し進められている制度改革等も例に挙げ、「未来の学校はどのような様相になっているのか、その中での事務職員の職務とは」という観点で話し合いました。

参加者からは「他市町の共同実施の現状を共有でき、有意義だった」、「紹介された全国での新しい働き方がとても新鮮だった」、「普段考えることのない未来の学校について話し合えて良い刺激になった」といった感想がありました。

### グループワーク内容

- ① 現在の共同実施における課題とその解決策
- ② 20年後の学校と事務職員の在り方はどうなってる？



## 第4分科会

第4分科会では、「自らの強みをどのように校務運営に生かすか」について考えました。

まず、南越前町共同実施の事例を紹介していただき、事務職員が財務の専門性を強みとして予算執行や予算要求に生かしている実践を学びました。

次に、事前アンケートをもとに強みや関心が共通する参加者同士のグループに分かれ、グループワークを行いました。グループワークでは、自らの強みを生かしてどのようなことに取り組んでいるか、取り組むにあたっての困難や、解決策などについて、他職種との協働という観点も踏まえて意見交換を行いました。

最後には、今後取り組んでみたいことを宣言し、学びを共有しました。

参加者からは「意見交流やアドバイスから今後の取組の参考にできることがあり、とても勉強になりました」、「一人で仕事をすることはできないので、他の教職員や教育委員会等との連携が重要であることを再認識した」といった感想がありました。

### グループワーク内容

- ① 強みを発揮して取り組んでいること
- ② 取組にあたっての課題・困難
- ③ 取組の改善や、課題・困難を解決するための協力者

※ グループ内共有

良かった点、共感点  
アドバイスなど情報交換



## まとめ

秋季研での発見から、すでに取り組を進めている人もいるのではないのでしょうか。今回の研究会で得た情報や新たな視点が日々の業務の一助になることを願っています。

また、アンケートへのご協力ありがとうございました。次年度の研究会運営や今後の研究部活動へ生かしていきます。

